

2009年3月期 期末決算説明会

2009年5月19日(火)
日本ハム株式会社

目 次

- 1 . 2009年3月期 期末連結業績の総括
- 2 . 2010年3月期 通期の見通し
- 3 . 2009年3月期 期末財務データ

2009年3月期 期末連結業績の総括

1. 2009年3月期 期末連結業績概要及び2010年3月期計画
2. 2009年3月期 期末連結業績概要及び2010年3月期計画〈所在地別セグメント状況〉
3. 2009年3月期 期末連結業績ハイライト
4. オペレーティング・セグメント情報
5. 営業利益の実績計画差および前年差の要因分析
6. オペレーティング・セグメント情報 加工事業本部
7. オペレーティング・セグメント情報 食肉事業本部
8. オペレーティング・セグメント情報 関連企業本部
9. 海外 主要地域別業績実績

2009年3月期連結業績実績及び2010年3月期計画

(単位:百万円、%)

連結業績	2009年3月期実績			2010年3月期計画					
	上期 累計実績	下期 累計実績	通期実績	上期計画	前年 同期比	下期計画	前年 同期比	通期計画	前年比
売上高	535,705	492,744	1,028,449	532,000	0.7	528,000	7.2	1,060,000	3.1
ハム・ソーセージ	65,054	73,822	138,876	69,000	6.1	73,000	1.1	142,000	2.2
加工食品	94,690	92,766	187,456	96,000	1.4	96,000	3.5	192,000	2.4
食肉	307,285	259,138	566,423	299,000	2.7	286,500	10.6	585,500	3.4
牛肉	113,950	92,952	206,902	112,000	1.7	105,500	13.5	217,500	5.1
豚肉	115,449	98,389	213,838	114,000	1.3	104,500	6.2	218,500	2.2
鶏肉	66,877	56,997	123,874	62,000	7.3	65,500	14.9	127,500	2.9
その他食肉	11,009	10,800	21,809	11,000	0.1	11,000	1.9	22,000	0.9
水産	41,438	42,321	83,759	42,000	1.4	44,500	5.1	86,500	3.3
乳製品	10,936	11,279	22,215	11,000	0.6	12,000	6.4	23,000	3.5
その他	16,302	13,418	29,720	15,000	8.0	16,000	19.2	31,000	4.3
売上原価	430,975	402,589	833,564						
売上総利益	104,730	90,155	194,885						
売上総利益率	19.5%	18.3%	18.9%						
販売費及び一般管理費	84,477	88,991	173,468						
営業利益	20,253	1,164	21,417	9,000	55.6	15,000	-	24,000	12.1
税引前利益(損失)	11,350	5,155	6,195	6,000	47.1	12,000	-	18,000	190.6
当期純利益(損失)	6,476	4,819	1,657	3,500	46.0	6,500	-	10,000	503.5

* 米国会計基準を組替えて表示しております。

* 前年比は、対前年増減率で表示しております。

* 本資料におきまして、当期に非継続となった事業に関して、2009年3月期の損益を一部組み替えて表示しています。

2009年3月期連結業績実績及び2010年3月期計画《所在地別セグメント状況》

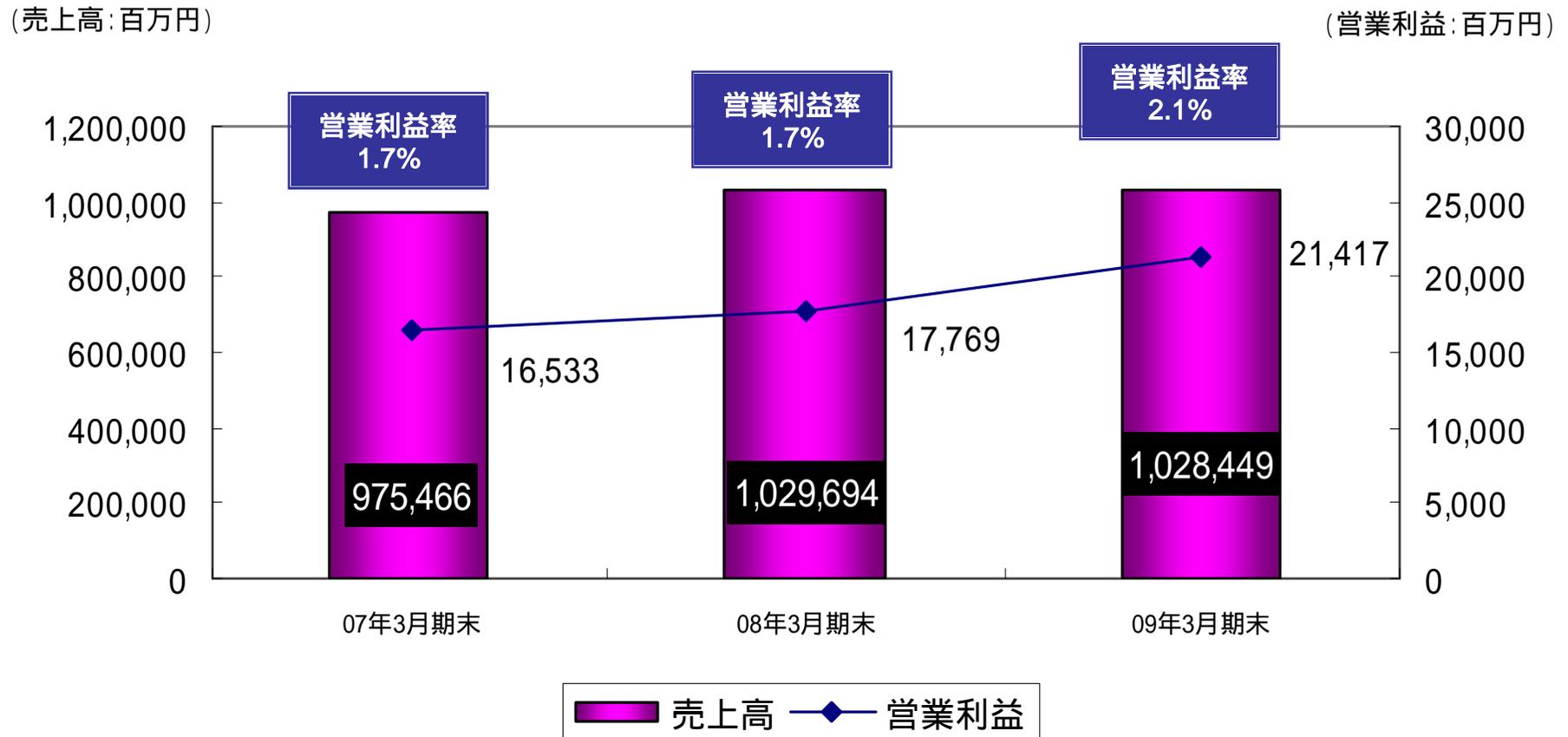
(単位:百万円、%)

連結業績	2009年3月期実績			2010年3月期計画					
	上期 累計実績	下期 累計実績	通期実績	上期計画	前年 同期比	下期計画	前年 同期比	通期計画	前年比
所在地別セグメント状況									
国内売上高	488,595	464,650	953,245	491,500	0.6	489,500	5.3	981,000	2.9
外部顧客売上高	488,098	464,392	952,490	491,000	0.6	489,000	5.3	980,000	2.9
セグメント間内部売	497	258	755	500	0.6	500	93.8	1,000	32.5
国内営業利益	19,730	1,518	21,248	-	-	-	-	-	-
国内売上高営業利益率	4.0%	0.3%	2.2%	-	-	-	-	-	-
海外売上高	94,671	66,984	161,655	89,150	5.8	83,050	24.0	172,200	6.5
外部顧客売上高	47,607	28,352	75,959	41,000	13.9	39,000	37.6	80,000	5.3
セグメント間内部売	47,064	38,632	85,696	48,150	2.3	44,050	14.0	92,200	7.6
海外営業利益	551	140	411	-	-	-	-	-	-
海外売上高営業利益率	0.6%	-	0.3%	-	-	-	-	-	-

* 所在地別セグメント状況の売上金額は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。

* 前年比は、対前年増減率で表示しております。

【売上高 営業利益推移】



オペレーティング・セグメント情報【2008年4月～2009年3月累計】

(単位:百万円、%)

	2008年3月期 通期累計実績			2009年3月期 通期累計実績		
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
加工事業本部	319,369	2,293	0.7	326,737	5,648	1.7
食肉事業本部	687,815	15,088	2.2	677,877	16,290	2.4
関連企業本部	132,391	708	-	132,508	527	-
消去・調整他	109,881	1,096	-	108,673	6	-
連結合計	1,029,694	17,769	1.7	1,028,449	21,417	2.1

オペレーティング・セグメント情報の売上高と、当資料P.3の品種別の売上高の数値は一致しません。

各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

前年度の各セグメントの実績は、一部子会社の管轄事業本部を変更したため、組み替えて再表示を行っております。

オペレーティング・セグメント情報【2009年1月～3月 第4四半期】

(単位:百万円、%)

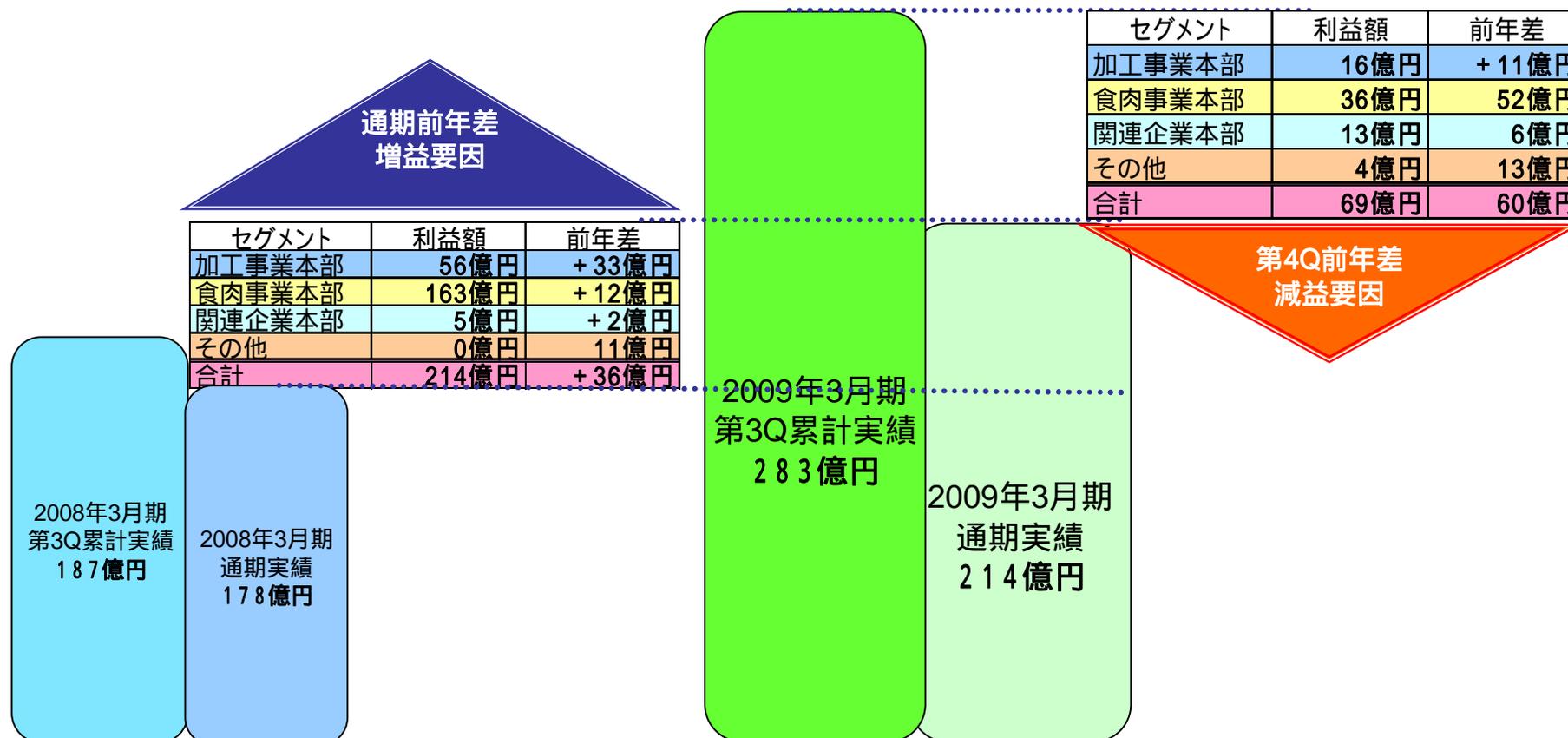
	2008年3月期 第4四半期実績			2009年3月期 第4四半期実績		
	売上高	営業利益	営業利益率	売上高	営業利益	営業利益率
加工事業本部	70,657	2,709	-	69,354	1,577	-
食肉事業本部	155,655	1,654	1.1	134,253	3,604	-
関連企業本部	28,899	692	-	28,652	1,341	-
消去・調整他	21,347	852	-	22,250	406	-
連結合計	233,864	895	-	210,009	6,928	-

オペレーティング・セグメント情報の売上高と、当資料P.3の品種別の売上高の数値は一致しません。

各セグメントの売上高はセグメント間の内部売上高が含まれています。

前年度の各セグメントの実績は、一部子会社の管轄事業本部を変更したため、組み替えて再表示を行っております。

営業利益増減要因(前年差)



	上期計	第3Q累計	第4Q	下期計	通期
2008年3月期実績	63億円	187億円	9億円	115億円	178億円
2009年3月期実績	203億円	283億円	69億円	11億円	214億円
対前年差	140億円	96億円	60億円	104億円	36億円

【加工事業本部】

(単位:百万円、%)

【4月～3月実績】	2008年3月期 通期累計実績	2009年3月期 通期累計実績	前年差	増減率
売上高	319,369	326,737	7,368	2.3
営業利益	2,293	5,648	3,355	146.3

(単位:百万円、%)

【1月～3月実績】	2008年3月期 第4Q実績	2009年3月期 第4Q実績	前年差	増減率
売上高	70,657	69,354	1,303	1.8
営業利益	2,709	1,577	1,132	-

【売上高の状況】

- ・価格改定による単価上昇の効果と、重点カテゴリー集中による拡販、更には新商品および年末の歳暮ギフトの売上増の効果により、加工事業本部トータルでは対前年増減率2.3%の増収。
- ・数量面では、2007年9月に全アイテムを対象に規格変更による価格改定を実施したが、ハム・ソーセージは、特に下期以後のシェア拡大の効果もあり、数量増。
一方加工食品は、2008年6月に追加で一部商品の規格変更を実施した影響もあり、数量微減。

【営業利益の状況】

- ・原材料価格、資材・燃料価格の高騰があり、依然厳しい状況だったが、価格改定やコスト削減策、重点カテゴリーや新商品と歳暮ギフトの売上増の効果で、加工事業本部トータルでは対前年差約33億円の増益。

【食肉事業本部】

(単位:百万円、%)

【4月～3月実績】	2008年3月期 通期累計実績	2009年3月期 通期累計実績	前年差	増減率
売上高	687,815	677,877	9,938	1.4
営業利益	15,088	16,290	1,202	8.0

(単位:百万円、%)

【1月～3月実績】	2008年3月期 第4Q実績	2009年3月期 第4Q実績	前年差	増減率
売上高	155,655	134,253	21,402	13.7
営業利益	1,654	3,604	5,258	-

【売上高の状況】

- ・第3四半期以降は経済不況の影響で需要が落ち込み、相場は低迷、販売数量も減少。
- ・食肉事業トータルでは、下期の急激な落ち込みで、対前年増減率1.4%の減収。

【営業利益の状況】

- ・下期は、世界的な経済環境が悪化したことで、国内・海外ともに畜産物の相場が低迷し、生産事業、販売事業ともに大きな打撃を受けた。その中でも特に輸入鶏肉の販売価格の下落が大きく、大幅減益。
- ・食肉事業本部トータルでは、上期の好業績で下期の落ち込みを補い、通期累計では対前年差約12億円の増益。

【関連企業本部】

(単位:百万円、%)

【4月～3月実績】	2008年3月期 通期累計実績	2009年3月期 通期累計実績	前年差	増減率
売上高	132,391	132,508	117	0.1
営業利益	708	527	181	-

(単位:百万円、%)

【1月～3月実績】	2008年3月期 第4Q実績	2009年3月期 第4Q実績	前年差	増減率
売上高	28,899	28,652	247	0.9
営業利益	692	1,341	649	-

【売上高の状況】

- ・マリンフーズは、景気後退により寿司店向けや外食向け商材が苦戦したが、内食回帰による量販店向けの売上増などでカバーし増収。
- ・宝幸は、チーズの価格改定や、国産冷凍食品の伸長などにより増収。
- ・日本ルナは、主原料の逼迫・高騰により主力商品の価格改定をした結果、売上が伸び悩み減収。

【営業利益の状況】

- ・水産、乳製品ともに、原材料価格の高騰などにより、各社とも厳しい状況にあったが、水産加工品やチーズの価格改定などの利益改善策を着実に実施し、関連企業本部トータルで約2億円の改善。

【海外 主要地域別売上高】

(単位:百万円、%)

	2008年3月期 通期累計実績	2009年3月期 通期累計実績	前年差	増減率
海外売上高計	185,279	161,655	23,624	12.8
豪州	80,694	62,536	18,158	22.5
米州	76,614	69,784	6,830	8.9
その他地域	32,419	32,592	173	0.5

売上金額は、セグメント間の内部売上高を消去する前の金額です。

海外売上は、豪州と米州で約80%前後を占めております。その他海外は、アジア、欧州となっております。

米州には、北米と南米の事業が含まれます。

【海外 主要地域別の売上高の状況】

- ・豪州は、大幅な為替変動により、売上高に大きな影響を受けた。また、皮革事業においては、世界同時不況による極度の需要減などの影響があり、豪州全体としては22.5%の減収。
- ・米州は、大幅な円高、豚生体相場低迷の長期化などにより、8.9%の減収。

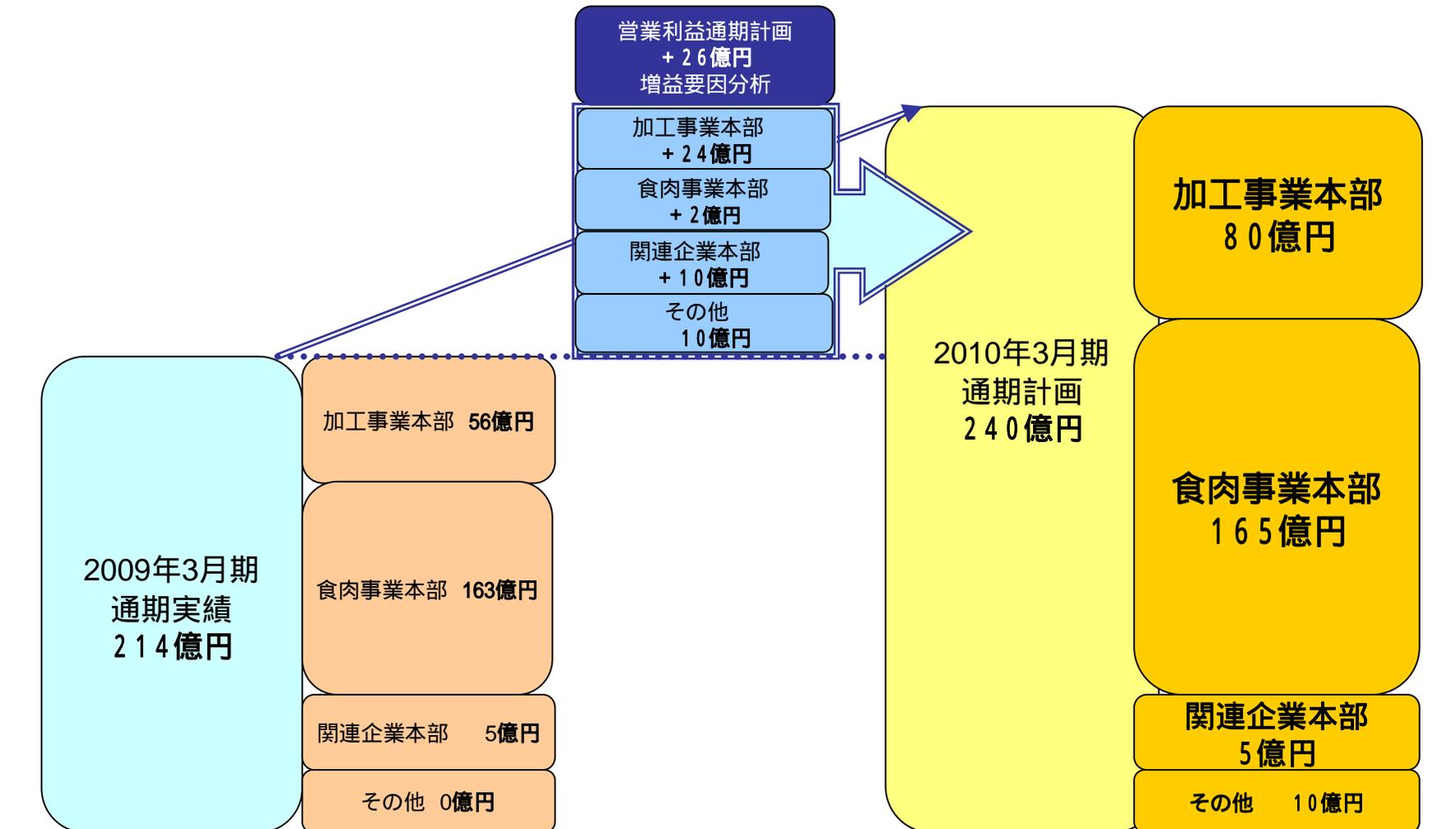
【地域別利益の状況】

- ・豪州は、コスト削減策や生産性の改善策の実施により増益。
- ・米州は、第4四半期の輸出部門の改善により増益。
- ・海外トータルでは、前年比で約48億円改善し、黒字化。

2010年3月期 通期の見通し

1. 加工事業本部 通期の見通し
2. 食肉事業本部 通期の見通し
3. 関連企業本部 通期の見通し

【事業セグメント別 営業利益計画】



売上の拡大策

中元・歳暮ギフトの販売計画

旗艦ブランド「美ノ国」を中心に、お中元のCMを6年ぶりに投入し、更なるシェアアップを目指す。

主要ブランド・新商品の拡販

【09年3月期通期 主要ブランド商品売上高前年比】

シャウエッセン群	106%	石窯工房群	122%
森の薫りウィンナー	111%	中華名菜群	97%
ウイニー群	100%	プリフライ群	100%
これは便利群	96%	ハンバーグ・ミートボール群	93%

チャネル別の売上状況

【09年3月期通期累計 チャネル別売上金額伸び率】

	コンシューマー	業務用	計
ハム・ソーセージ	107%	95%	105%
加工食品	102%	105%	104%

2009年3月期の営業利益増減要因分析

- ・コストアップ要因 : 通期累計 72億円
- ・コストダウン要因 : 通期累計106億円

トータル34億円の改善

2010年3月期の利益増減要因見通し

- ・原価低減・コスト削減効果: 通期72億円の改善計画
- ・販売促進・投資等費用 : 通期48億円の先行投資

トータル24億円の増益を見込む

【ギフト販売個数 09年3月期実績と10年3月期計画】

(単位:千個、%)

	09年3月期実績	10年3月期計画	前年比
中元	1,694	1,866	110%
歳暮	5,156	5,415	105%
合計	6,850	7,280	106%

TVC M効果もあり、シャウエッセンは特に好調。今期も25周年のTVC Mを投入し、更なる拡販を図る。

新商品も、「新鮮生活ZERO」シリーズ等の健康志向の商品を中心に、定着・拡大を図る。

コンシューマーは、既存重点商品の拡販と高付加価値商品の育成を中心に、ブランド価値向上を図る。業務用は、NB商品を中心に、メニュー提案型営業を強化し、シェア拡大を図る。

コストアップ要因		コストダウン要因	
主原料価格上昇額	37億円	製造部門等の改善活動効果額	40億円
資材価格・物流費等上昇額	35億円	価格改定・数量拡大効果額	48億円
		構造改革効果額	8億円
		品種統廃合効果額など	5億円
		ギフトの売上増による増益	5億円
合計	72億円	合計	106億円
総計		34億円	

コストアップ要因		コストダウン要因	
販促・商品リニューアル等費用額	25億円	主原料価格縮小額	37億円
TVC M投入費用額	5億円	資材価格・物流費等縮小額	13億円
システム物流拠点初期導入費用額	18億円	製造部門等の改善活動効果額	15億円
		構造改革効果額	5億円
		売上増による効果額	2億円
合計	48億円	合計	72億円
総計		24億円	

海外事業の見通し

豪州事業の見通し

生産コストは横ばいで、世界的に高級部位を中心に需要が伸び悩んでおり、厳しい状況が続く。

米州事業の見通し

4月末に発生した新型インフルエンザの影響もあり、輸出を含め需要が減少し豚生体相場が下落。

飼料価格は下がっているが、厳しい状況が続く。

海外事業の状況

豪州事業の状況

- ・【牛肉事業】
世界経済の悪化により、ロシアなどの新興国の需要は伸び悩んでいる。
- ・【皮革事業】
世界的に、自動車向けレザーシートや家具用の需要が減少し、在庫過多の状況。
3工場のうち、1工場を2009年3月に閉鎖。更なる改革を検討中。

米州事業の状況

- ・【養豚事業】
飼料価格は下がって来ているものの、肉豚供給過多と、輸出の低迷による極端な枝肉相場の低迷が続き、今期は厳しい状況が続く見込み。
- ・【新型インフルエンザの影響】
ロシア、中国などが、米国産豚肉の禁輸措置をとった影響で、輸出用の需要が減少。
足元、豚生体相場も下がっており、長期化すれば米州事業の減益要因になる見込み。

国内事業の見通し

国内生産事業の見通し

景気低迷による需要減や輸入物へのシフトの影響で、豚、鶏ともに相場が軟調に推移。

足元の飼料コストは安定しているものの、上期中は生産コストの高い豚、鶏が出荷されるため、厳しい環境が続く。

国内事業の状況

国内生産事業の状況

- ・【養豚事業】
ワクチン効果による生体出荷頭数増の中、価格優位にある輸入チルドポークへの需要シフト等により想定以上に相場低迷。現況の相場が続くと、減益要因となる。
- ・【養鶏事業】
昨年秋口以降の輸入鶏肉の相場が暴落。景気の悪化に伴い、需要が国産から輸入物へシフトし、年明け以降国産鶏肉の相場は大幅に下落。上期中は厳しい状況が続く見込み。
- ・【飼料価格】
前期第4四半期以降、飼料価格は下がっているが、各畜種とも相場も低迷しており、大きな効果は出難い状況。

国内販売事業の見通し

輸入食肉は、相場下落により厳しい環境が続く。輸入プロイラーの高値の在庫は第1四半期中に販売できる見通し。

一方国内食肉は、好調に推移しているものの、先行きは不透明な状況。

国内販売事業の状況

- ・【輸入食肉販売】
大きな減益要因となっていた輸入鶏肉については、今期、第1四半期中に逆ザヤ在庫を販売するが、販売価格は横ばいの状況で、先行きは不透明。
- ・【国内食肉販売】
国内食肉の販売については、比較的堅調であるが、需要の伸び悩みもあり楽観はできない状況。
- ・【食肉販売子会社の状況】
好調に推移しているが、景気低迷による価格下げ圧力は増しており、販売数量の拡大により利益確保を目指す。

水産事業の現状

- ・外食産業の販売不振の影響を受け、主力商品の寿司種やウニ・イクラなどの高額な水産品の消費が減少傾向。
- ・一方、消費者の内食回帰により、量販店向けの商材は伸長。

今期の方針

- ・寿司種については、短期的に落ち込んでいる外食チャンネルの数量回復を図り、寿司市場でのシェア拡大を目指す。
- ・三重工場における水産加工品の付加価値商品開発を推進し、稼働率向上及び利益率改善を図る。
- ・前期より取り組んでいる国内でのマグロ養殖の推進と並行して、国内外の産地との取り組みを強化し、水産事業におけるインテグレーションを構築する。

乳製品事業の現状

- ・チーズは、外食チャンネルを中心に売上伸長。利益も、価格改定効果と、下期以降の原料価格の低下により改善傾向。
- ・ヨーグルトは、昨年の主原料不足と、原料価格の高騰は解消傾向。

今期の方針

- ・乳製品の原料価格は今期は安定的に推移する見通し。商品開発力に加え、営業力を強化し、売上拡大を図る。
- ・チーズは、外食チャンネル、ベーカリーチャンネルを中心に拡販し、シェアの拡大を図る。
- ・ヨーグルトは、最大消費地である首都圏での営業を強化する。

主原料・副資材価格の見通し

- ・前年度の実績 : 通期累計28億円のコストUP
- ↓
- ・今期の見通し : 原材料の影響はほとんどない。

	2009年3月期 通期上昇額
水産原料上昇額	2億円
乳製品原料上昇額	26億円
合計	28億円

3. 2009年3月期 期末財務データ

1. 販管費・その他収益・その他費用

2. 貸借対照表、設備投資額・減価償却費

連結業績概要(販管費・その他収益・その他費用)

(単位:百万円、%)

販管費	2008年3月期	2009年3月期		
	通期累計実績	通期累計実績	対前年増減率	対前年増減額
販売費及び一般管理費	171,413	173,468	1.2	2,055
人件費	72,720	69,045	5.1	3,675
販売促進費	14,360	16,517	15.0	2,157
物流費	35,185	36,877	4.8	1,692
その他	49,148	51,029	3.8	1,881

主な増減要因

- ・販管費は前期比約21億円増加し、販管費率も16.7%から16.9%と0.2ポイント増加。
 - ・人件費 : 転籍効果及び子会社退職給付費用の減少などにより、約37億円減少。
 - ・販売促進費 : 年末商戦および年始からの新商品の計画的な広告宣伝の投入等により約22億円増加。
 - ・物流費 : 上期までの燃料費の高騰による運送費の増加により、約17億円増加。

(単位:百万円、%)

連結その他収益・その他費用	2008年3月期	2009年3月期		
	通期累計実績	通期累計実績	対前年増減率	対前年増減額
その他収益合計	1,008	1,299	28.9	291
受取利息・配当金	963	1,030	7.0	67
その他	45	269	497.8	224

支払利息	2,771	2,506	9.6	265
その他費用合計	8,237	14,015	70.1	5,778
有価証券評価損	930	587	36.9	343
固定資産減損	258	2,730	958.1	2,472
特別退職金	3,472	1,835	47.1	1,637
為替差損	2,289	8,339	264.3	6,050
その他	1,288	524	59.3	764

主な増減要因

- ・その他費用 : 特別退職金は減少したものの、急激な為替相場の変動による為替差損や、固定資産減損が発生したため、トータルでは約58億円増加。

連結業績概要 (貸借対照表、設備投資額・減価償却費)

(単位:百万円、%)

連結貸借対照表	2008年3月期 期末実績	2009年3月期 期末実績	対前期末 増減率	対前期末 増減額
資産合計	608,809	583,684	4.1	25,125
現金及び現金同等物	44,249	41,323	6.6	2,926
売上債権	110,084	102,791	6.6	7,293
棚卸資産	112,218	115,765	3.2	3,547
投資及び長期債権	31,722	28,355	10.6	3,367
有形固定資産	246,874	232,862	5.7	14,012
長期繰延税金資産	12,954	18,779	45.0	5,825
負債合計(少数株主持分含む)	321,352	313,245	2.5	8,107
支払手形及び買掛金	87,296	85,377	2.2	1,919
有利子負債	183,539	168,950	7.9	14,589
退職金及び年金債務	14,299	23,259	62.7	8,960
資本合計	287,457	270,439	5.9	17,018

主な増減要因

- ・棚卸資産 : 主に食肉在庫の増加により、約35億円増加。
- ・売上債権 : 主に売上高減少のため、約73億円減少。
- ・有利子負債 : 社債償還(97億円)や、長期借入金の約定返済により、146億円減少。

(単位:百万円、%)

(設備投資額、減価償却費)	2008年3月期	2009年3月期		2010年3月期
	通期累計実績	通期累計実績	対前年増減率	対前年増減額
設備投資額	18,627	22,148	18.9	3,521
生産設備	6,807	8,736	28.3	1,929
販売・物流設備	1,566	3,154	101.4	1,588
ファーム・処理設備	4,088	3,290	19.5	798
海外事業設備	2,635	1,566	40.6	1,069
その他設備	3,531	5,402	53.0	1,871
減価償却費	23,939	24,000	0.3	61

お問合せ先
〒141-6014 東京都品川区大崎2 - 1 - 1
ThinkPark Tower 14階
日本ハム株式会社 広報IR部
電話:03-6748-8024
FAX:03-6748-8189

見通しに関する注意事項

この資料には、当社の将来についての計画や戦略、業績に関する見通しの記述が含まれています。これらの記述は当社が現時点で把握可能な情報から判断した仮定及び所信に基づく見通しです。また、経済環境、市場動向、為替レートなどの外部環境の影響があります。従って、これら業績見通しのみで全面的に依拠することはお控え頂きますようお願い致します。また、実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しと異なる結果となりうることをご承知おき下さい。